

## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月13日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福  
コード番号 2058 URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859  
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	6,346	6.5	△8	—	42	46.0	△25	—
2023年3月期第2四半期	5,959	4.5	△66	—	29	△90.2	2	△98.6

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 69百万円(24.5%) 2023年3月期第2四半期 55百万円(△69.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△6.52	—
2023年3月期第2四半期	0.59	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	15,201	5,258	34.6
2023年3月期	14,367	5,216	36.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 5,258百万円 2023年3月期 5,216百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2024年3月期	—	0.00			
2024年3月期(予想)			—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,935	10.3	13	—	66	△33.0	18	—	4.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	4,746,000株	2023年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	799,823株	2023年3月期	809,823株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	3,940,111株	2023年3月期2Q	3,925,232株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実施の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 当期の連結業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を契機として人流が活発化し、個人消費やインバウンド需要が回復することで停滞していた経済活動の正常化が進み、景気は緩やかに持ち直す基調となりました。一方で、ウクライナ情勢の長期化や日米の金利格差による円安進行、中国による日本産水産物の輸入規制、原材料費やエネルギー等の価格高騰の継続など、国内外は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループの事業環境におきましては、個人消費や外食需要、インバウンド需要の回復基調を受けて売上を伸ばすことができた反面、海外経済の不安定な動きから、主要原材料、燃料費、輸送費及び資材費などの価格高騰の影響は深刻化する兆しがあり、コスト増によるさらなる収益圧迫が予想されるため、コストカットや販売価格の見直しなどの対応の必要性に迫られています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高63億46百万円（前年同四半期比6.5%増）、営業損失8百万円（前年同四半期は営業損失66百万円）、経常利益42百万円（前年同四半期比46.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益2百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

#### ①水産事業

水産事業におきましては、外食及び業務用向け関連商材の売買が回復してきております。全体的なコスト増加の影響を受けて鮮魚相場は上昇しているものの、市場は少しでも安い商材を求める傾向にあることから、価格競争が激化しています。養殖業者においては養殖魚の種苗導入、飼育及び出荷の調整の判断が難しい状況が続いております。

また、養魚用配合飼料の主要原料となる魚粉や魚油の価格高騰は依然継続しており、燃料費や資材費、輸送費といった生産コストも増加しています。業界動向を注視しながら、コストダウンと利益確保の施策を模索する状況で推移しました。

エビ飼料類は、既存客先での当社シェア率アップや価格改定前の買い込み対応、海外向け売上の増加などがあり、前年同期を上回りました。ハマチ飼料類は、受託製品における入札不調や価格改定前に買い込みがあった在庫の消化遅れ、台風や赤潮による給餌制限などの影響により、前年同期を下回りました。ヒラメ・マダイ飼料類は、付加価値の高い製品群と海外向け製品の販売数量が増加したことから、前年同期を上回りました。

魚類種苗生産事業は、養殖業者向けと放流事業向けの出荷が増加し、成魚販売も拡大したことにより、前年同期を上回りました。魚類養殖事業は、クロマグロを出荷したこととスギの出荷数量も増えたことから、前年同期を上回りました。鮮魚販売事業は、外食等業務用向けの販売は増加傾向にありますが、量販店向けの販売が大きく減少し、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は37億19百万円（前年同四半期比7.1%増）、セグメント利益は2億10百万円（前年同四半期比97.3%増）となりました。

#### ②食品事業

食品事業におきましては、人出や物流が回復傾向にあり、量販店や外食産業はコロナ禍前の状況に戻りつつあります。一方で不安定な世界情勢や円安の影響で、原料費や資材費、エネルギー関連商材の価格動向の不透明感は続いております。

主原料の小麦粉は2023年6月に政府売渡価格の値上げがあり、パーム油や資材の価格、輸送費等が高止まりしている状況にあります。販売店での拡販競争は今後も厳しいものであることが予想され、製品価格の適切な改定実施の見定めが必要な状況で推移しました。

即席麺類は、インバウンド需要の回復傾向を受けてPB商品の販売が増加し、自社商品の価格改定もできたことから、前年同期を上回りました。乾麺類（うどん・そうめん等）は、価格改定の影響を受けて販売数量が減少し、PB商品でも販売エリア縮小などがあり、前年同期を下回りました。また、皿うどん類は、価格訴求品と新規PB商品は販売増加したものの、価格改定後、主力アイテムの各量販店での定番及び特売採用が減少し、前年同期を下回りました。一方で、ラーメン類は、海外向けPB商品の受注が大幅に増加し、前年同期を上回りました。

た。

カレールー・シチュールー類は、価格改定と夏の猛暑の影響で販売数量が一部で減少したものの、量販店への販促や新規導入店での定番商品化が出来たことで前年同期を上回りました。穀粉類は、新規企画の採用は複数件ありましたが、原料事情の影響により既存顧客での販売数量が減少したことで前年同期を下回りました。かき揚げ類は、販売アイテムの移行はありましたが、新規企画の採用や既存品の拡販が順調に推移し、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は26億27百万円（前年同四半期比5.7%増）、セグメント損失は28百万円（前年同四半期はセグメント利益25百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ8億33百万円増加し、152億1百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が9億50百万円増加、原材料及び貯蔵品が1億54百万円減少したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ7億90百万円増加し99億42百万円となりました。これは、主として買掛金が1億99百万円増加、短期借入金が4億19百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ42百万円増加し52億58百万円となりました。これは、主としてその他有価証券評価差額金が94百万円増加したことなどによるものです。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。なお、2023年5月15日の「2023年3月期決算短信」において公表しました2024年3月期通期の業績予想を修正しております。詳細は、本日公表の「2024年3月期第2四半期の業績予想と実績値との差異及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,310	1,399
受取手形及び売掛金	1,687	2,637
商品及び製品	752	834
仕掛品	419	436
原材料及び貯蔵品	1,917	1,763
その他	425	216
貸倒引当金	△11	△20
流動資産合計	6,501	7,266
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,498	2,382
土地	2,222	2,222
その他（純額）	1,715	1,683
有形固定資産合計	6,436	6,288
無形固定資産		
のれん	66	57
その他	20	34
無形固定資産合計	87	91
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,381	1,593
貸倒引当金	△39	△39
投資その他の資産合計	1,342	1,554
固定資産合計	7,866	7,934
資産合計	14,367	15,201

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	736	936
短期借入金	3,731	4,151
未払法人税等	44	85
賞与引当金	164	163
その他	640	827
流動負債合計	5,317	6,164
固定負債		
長期借入金	2,179	2,123
退職給付に係る負債	101	108
その他	1,553	1,545
固定負債合計	3,834	3,778
負債合計	9,151	9,942
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	433	431
利益剰余金	4,814	4,753
自己株式	△886	△875
株主資本合計	4,965	4,913
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	250	345
その他の包括利益累計額合計	250	345
純資産合計	5,216	5,258
負債純資産合計	14,367	15,201

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	5,959	6,346
売上原価	4,878	5,229
売上総利益	1,081	1,117
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	273	278
貸倒引当金繰入額	3	9
給料及び賞与	263	246
賞与引当金繰入額	61	57
退職給付費用	11	17
その他	535	515
販売費及び一般管理費合計	1,148	1,125
営業損失(△)	△66	△8
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	6	8
為替差益	49	7
デリバティブ評価益	-	22
雑収入	45	27
営業外収益合計	105	68
営業外費用		
支払利息	9	17
雑損失	0	0
営業外費用合計	9	17
経常利益	29	42
特別利益		
受取和解金	55	-
特別利益合計	55	-
税金等調整前四半期純利益	84	42
法人税、住民税及び事業税	91	76
法人税等調整額	△9	△8
法人税等合計	81	68
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2	△25
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2	△25



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2	△25
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	53	94
その他の包括利益合計	53	94
四半期包括利益	55	69
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	55	69
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	2,532	—	2,532	—	2,532
養殖魚類	940	—	940	—	940
乾麺・即席麺類	—	1,065	1,065	—	1,065
カレールー・シチュールー類	—	767	767	—	767
穀粉類	—	376	376	—	376
かき揚げ類	—	277	277	—	277
顧客との契約から生じる収益	3,473	2,486	5,959	—	5,959
外部顧客への売上高	3,473	2,486	5,959	—	5,959
セグメント利益	106	25	131	△102	29

(注) 1 セグメント利益の調整額△102百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費152百万円、営業外収益58百万円、営業外費用8百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	2,829	—	2,829	—	2,829
養殖魚類	889	—	889	—	889
乾麺・即席麺類	—	1,182	1,182	—	1,182
カレールー・シチュールー類	—	774	774	—	774
穀粉類	—	370	370	—	370
かき揚げ類	—	300	300	—	300
顧客との契約から生じる収益	3,719	2,627	6,346	—	6,346
外部顧客への売上高	3,719	2,627	6,346	—	6,346
セグメント利益又は損失(△)	210	△28	181	△138	42

(注) 1 セグメント利益の調整額△138百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費154百万円、営業外収益23百万円、営業外費用7百万円であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。